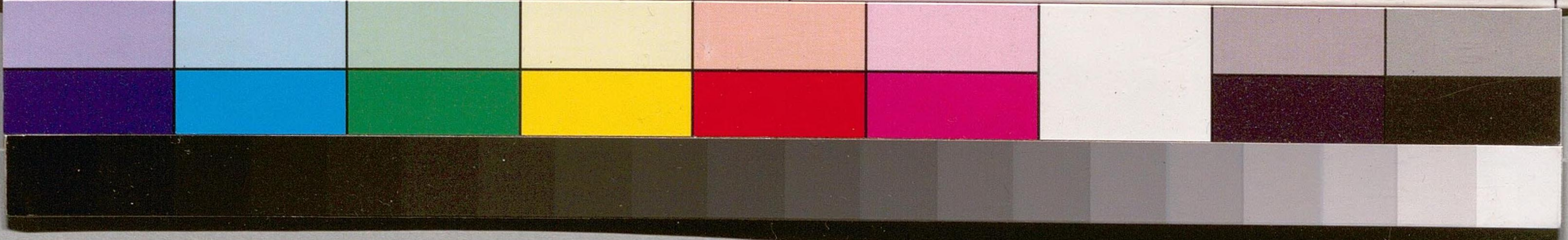
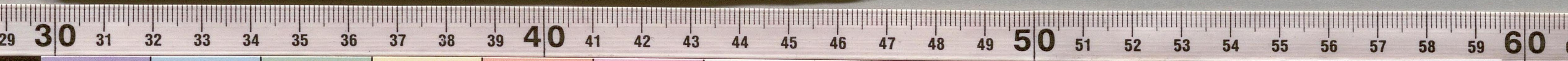


國計論

井上





第一

社會學者ノ説ニ從ハハ凡ソ人ノ集マリテ國ヲ  
成ス者ハ其外來ノ障礙ト及氣候風土ノ衛養ニ  
適セスシテ從テ進歩ヲ妨ル事情アル場合ヲ除  
ク外海ノ東西ヲ問ハズ人種ノ異同ヲ問ハズ不  
斷變遷ノ年朔ヲ經過シテ次第ニ級ヲ逐テ進化  
シ以テ文明殷富康樂ノ境界ニ到着セサルナ  
シ是恰モ人ノ幼ヨリ少ニ進ニ少ヨリ壯ニ至ル  
カ如ク一定ノ自然法アリテ之ヲ支配スル者ニ  
シテ人為ノ事業ハ僅ニ之ヲ翼賛補養スルニ過

尾井



キサル者ナリト云  
其然リ然リト雖各國進化ノ間或ハ偶然ノ事故  
ニ由リ或ハ人性免レザルノ缺所ヨリ生スル迷  
謬ニ由リ或ハ非常ナル兵乱ノ残滅荒廢ニ由リ  
或ハ太平媮安ノ萎靡ニ由リ中道ニシテ退歩シ  
又ハ停滯シテ更ニ轉進スルコト能ハサル者ア  
リ此ノ如キノ國ハ往々自然淘汰優勝劣敗ノ天  
法ニ由リ其國ノ独立ヲ保ツコト能ハスレテ自  
ラ滅亡ヲ招キ他ノ先進ノ國ヨリ併吞セララル  
ニ至ル亦怪ハニ足ルコトナレ

同井

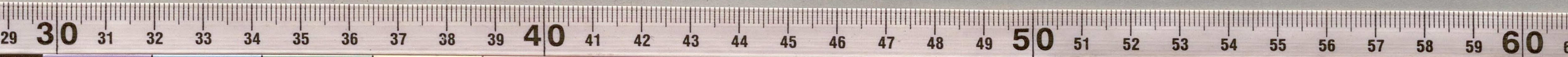
斯ニ一國アラン久シク退歩停滯ノ位地ニ沈シ  
テ其進機ヲ怠癯ノ極ニ付レタランニ一朝警覺  
スル所アリ手ニ唾シテ起リ轉レテ他ノ先進各  
國ト競争セントスルニ當テハ銳進決行勇往直  
前ノ一方アルノ外何ノ疑フ所カアラン此大事  
ヲ了解セザル今日ノ時機ニ醉生夢死スル者ナ  
リ  
抑一國興廢ノ係ル細小ノ障碍ハ一毛顧慮スル  
所アルニ足ラズト雖此百紛ノ排ヤ百難ヲ突イ  
テ一方ノ進路ヲ求ルニ急ナルノ日ニ當テ極細



心ニ注意留意シテ歩ム。循守セザルコトヲ得ザル者ハ唯々自然進化ノ天法是ナリ。改良急進ノ日ニ當テ之ヲ妨クル者ハ苟安ノ愚民ニ非ザルナリ。又守舊ノ黨類ニ非ザルナリ。蓋財計ヲ除クノ外一モ此大勢ノ一大障礙物タルニ足ルモノナカルヘシ。此レヲ進軍ノ輜重ニ譬フ。輜重ノ累ヒナカリセハ一日百里ヲ行クト雖可ナリ。改新ノ政百廢俱ニ起ル。簡易ヲ變シテ文明ニ就ク。凡ソ各般ノ構制舊ニ依ル者皆一朝ニ破毀シ

同井

テ以テ新規ヲ建設セザルコトヲ得ズ。政府ノ敗政此時務ノ急ニ應シテ給足スルコト能ハサルハ怪ムニ足ルコトナク如何ナル政事家如何ナル經濟家アリト雖此時ニ際シテ輕租薄斂以テ出入ヲ支フルコトハ決シテ望ムコト能ハサル所ナルベシ。政府ノ財政ハ之ヲ本論ノ範圍ノ外ニ置キ主トシテ國民ノ財計ヲ論スルニ全國ノ民俗舊ヲ變シテ新ニ就クノ日ニ當テ一方ニ於テハ從來ノ生産工業頓ニ其價ヲ失ヒ而シテ新規ノ事業俄ニ

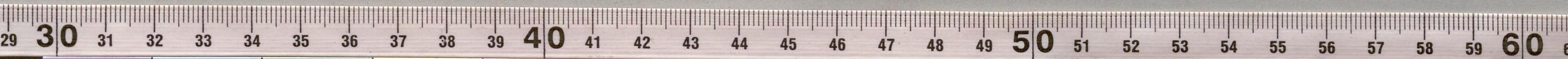




練熟ニ至ルコト能ハズ他ノ一方ニ於テハ耳目  
肉體ノ喜フ所交際ノ促ス所文明華僑ノ事物需  
要日ク急ニ嗜好日ニ切ニシテ自ラ節度牽制ス  
ルノ能力ヲ嗣キ是ニ於テ賣ル物ノ售ル、ヨリ  
モ買フ物格外ニ其比例ヲ増シ或ハ買フコトニ  
急ナルカ為ニ賣ル者ヲ賣崩シ祖先以來ノ儲蓄  
ナル資本ヲ放出シテ隈防ヲ決シ涸水ヲ行ルカ  
如ク貧キ者產ヲ失ヒ富ム者產ヲ減シ肉落骨立  
一年一年ヨリ窮シ全國ヲ擧テ全ク財利ノ活動  
ヲ失フニ至テ猶止ム所ヲ知ラザラントス是レ

(同井)

畢竟人智ノ弱點ヨリ起ル者ニシテ改新ノ際ニ  
免ル、コト能ハザル、ノ疾疫ナリ  
抑、彼ノ先進ノ國ハ嘗テ此ノ如キ厄運ヲ經過シ  
来リシヤ若シ先進ノ國ノ歴史ヲ閲スルニ此ノ  
如キ厄運アルヲ見ザリシナラハ何故ニ獨リ後  
進ノ國ノミ此ノ不幸ナル疾疫ニ罹ルコトヲ免  
レザルヤ蓋生産ト消費ト其比例ヲ得レハ物ト  
シテ儉約ナラザルハナシ生産ト消費ト其比例  
ヲ失ハハ物トシテ奢侈ナラザルハナシ故ニ奢  
侈ハ其物ニ存セズシテ其物ヲ使用スルノ國又





ハ人ノ位置如何ニ存スルハ經濟家ノ常言ナリ  
今此論理ヲ應用スルニ當テ左ノ二項ノ差異ア  
ルヲ見ル

第一 先進ノ國ニ於テハ人民ノ風俗慣習ハ自  
然ノ順序ヲ經テ徐々ニ變遷シタルヲ以テ從テ  
衣食百般需要ノ事物粗ヨリ精ニ移リ質材材ヨリ  
華美ニ移ルノ際亦許多ノ歲月ヲ經恰モ生産力  
ノ知識上ヨリ漸進スル者ト同一比例ノ順序ニ  
於テ進行シタリ

第二 先進ノ國ニ於テハ自然ノ進化ヲ誤ラズ

同井

シテ多分ハ生産力ハ常ニ嚮導者トナリ而シテ  
消費力ハ其隨從者タリシ  
然ルニ後進ノ國ニ於テハ人民ノ風俗慣習自然  
ノ順序ヲ經ズシテ疾行急歩ノ際ニ變遷スルヲ  
以テ消費力ノ肉体及儀式ニ係ル者ハ油薪ニ火  
ヲ放ツカ如ク一時過度ニ増進シ而シテ生産力  
ノ知識經驗ニ倚賴スル者ハ冷水ヲ温メテ熱湯  
トナスカ如ク必ヤ其須要ノ順序ト時間トヲ經  
過セザルヘカラザルカ故ニ此ノ二ツノ者同時  
ニ進行スルコト能ハスシテ頓ニ其比例ヲ失ヒ



懸隔ノ差度ヲ生スルニ至ラシムルナリ之ヲ卑  
近ナル重學ノ理ニ譬ヘンニ先進ノ國ハ一ツノ坂  
ニ兩丸ヲ轉スルカ如シ其惰力平均ナルヲ以テ  
兩丸同一比例ニ進行シテ同時ニ一所ニ到着ス  
ルコトヲ得タリシニ後進ノ國ハ一ツノ坂ニ一ツノ  
圓滑ナル球丸ト又一ツノ四角ナル圭石トヲ轉下  
シ圓丸ハ瞬時ニ急下スルモ四角物ハ中途ニ滯  
滯シテ同時ニ轉行スルコト能ハサルカ如シ生  
産物ハ知識ト經驗ニ關係スルヲ以テ其必要ノ  
順序ト時期ヲ闕略スルコト能ハサルハ恰モ四

同井

角ナル圭石ノ如ク消費ハ肉体又ハ儀式ニ關係  
スルニ止マルヲ以テ輕ニ進行スルヲ得順序  
ト時期ヲ必要トセザルコト恰モ圓丸ノ坂ヲ下  
ルニ均シキナリ  
今又後進ノ國ハ何故ニ先進ノ國ノ生産ト消費  
トヲ比例並行セシメタルニ倣フノ能力ヲ有セ  
サルヤトノ問題ヲ設ケンニ是先進ノ國ノ人民  
ノ智ニシテ後進ノ國ノ人民ノ愚ナルニ非ス即  
チ後進ノ國ノ開化ハ本ト自力ニ倚賴セズシテ  
他カニ感動セラレタルモノナルカ故ニ一時目



移リ心動キテ自然進遷ノ順序ニ遵フコト能ハ  
ス動モスレハ本末華実ヲ轉倒シ觀美ヲ先ニシ  
テ後計ヲ顧ミサルノ病ヲ免ルコト能ハザルニ  
由ルナリ

イタリヤノ離刺ニ三女ノ肖像アリ其一人ハ年  
方ニ壯長ニシテ中間ニ屹立セリ其右ノ一人ハ  
既ニ老期ニ達シタル者ニシテ中立セル壯女ノ  
右ノ手ニ縋リ一膝ヲ屈ケ倒レントスルノ體勢  
ヲナセリ其左ニ跪坐セル一人ハ妙齡ノ女ニシ  
テ中立セル壯女ノ左ノ手ヲ攀チ力ヲ奮フテ起

同井

キ上ラントスル形状ヲナセリ此刻像ヲ解スル  
ノ説ニ曰是レ一日ニ朝午暮ノ三期アルヲ表シ  
盛衰ノ理ヲ顯シタルナリト云

凡ソ有機生物ハ少壯老ノ三期アラザルコトナ  
キハ恰モ一日ノ中朝午暮ノ三期アルカ如シ国  
モ亦一種ノ有機物ニシテ後進ノ國ハ則チ方ニ  
少期ノ位置ニ居ル者ナリ  
少期ノ國ハ其固有ノ性質ニ於テ人民質素ニシ  
テ生活ノ度未タ高尚ナラス故ニ生産ノ実カ未  
タ進マズト雖費用多カラスニ事業ヲ興スノ便



ヲ得後テハ資本ヲ用ヒテ一國富實ノ基ヲ為ス  
コトヲ得ヘシ少期ノ國ハ人民朴直ニシテ忠愛  
ノ心ニ厚ク上ノ率先スル所ハ下必其方嚮ニ從  
ノ氣風アリ此ノニツノ美德ハ少期ノ國ニ於テ  
專有スル所ノ無ニシテ資本ニシテ恰モ生理學ニ  
於テ少年ノ身体ハ其骨節軟柔ニシテ漸次張大  
ニ進ミ其勞動敏活ニ嗜慾淡泊ニシテ發育ニ便  
ナルニ均レク俱ニ造化自然進行ノ順序ニ因ル  
者ナリ古今新興ノ國ノ英雄ハ皆此ノ專有無ニ  
ノ資本ヲ利用シテ自然ノ良能ヲ翼賛シタル者

同井

ナリ若レ此ノ良能ニ乖キ自然進行ノ順序ヲ誤  
ルトキハ恰モ少女ニシテ壯期ノ多慾ト老期ノ  
奮敗トヲ學フ者ニ均シク發育ホタ足ラザルニ  
精氣缺乏シ忽チ適當ノ比例ヲ失ヒ其結果ハ一  
朝經濟上ニ向テ不治ノ惡候ヲ呈露スルニ至ラ  
ントス

第二

後進ノ國ハ不幸ニモ前途獨立ノ成否ニ付キ疑  
問ノ間ニ居ル者ナリ歐洲ノ大言ヲ為ス者ハ東  
洋各國ノ命運ハ二十年内ニ決スルナラント云





トイヘリ人アリ未来ノ想像ヲ描畫シテ曰東洋  
ニハ恐ラクハ左ノ兩様ノ國ヲ現タスルナルヘ  
シ

甲 版圖廣大物産殷阜ノ國ハ恃ム所アリテ  
自尊ノ風ヲ持シ奮テ改進ノ途ニ就クコト  
能ハス遂ニ病羸ノ巨象豺虎ニ制セラルハ  
ノ象ヲ見ルニ至ルヘシ  
乙 他ノ改進ニ勇銳ニシテ文明ニ競争スル  
ノ國ハ意外ニ經濟上ノ妨碍ヲ被リ水液涸  
盡シテ樹木凋瘁スルノ象ヲ見ルニ至ルヘ

同井

シ

此ノ如キノ說話ハ往々後ニ人意ヲ弱カラシメ  
毫モ効果ナキ者ナレハ固ヨリ取ルニ足ラズト  
雖此亦國ノ先覺タル政事家及碩學者ノ為ニ一  
ノ警戒タルコトヲ失ハザルヘシ  
東洋各國ヲ以テ西洋ニ比較スルニ航海通商及  
殖産移民ノ事ニ就テハ實ニ三百年ヲ遅クシ陸  
海軍制ニ就テハ實ニ二百年ヲ遅クシ器械製造  
ノ工事ニ就テハ實ニ百年ヲ遅クス今試ニ西洋  
各國ノ資本ヲ以テ我國現存ノ資本ヲ比較スル





トキハ十倍以上ノ比例ヲ顯スコトヲ見ルヘシ  
有形ノ資本既ニ然ルトキハ無形ノ資本モ亦之  
ニ准スル者ト假定シテ大差ナカルヘシ  
抑疾ノ身ニ在ル者ハ其病ヲ反省スルノ觀察力  
ニ乏ク却テ其患害ヲ遺忘シ或ハカノテ苦悶ヲ  
消遣スルカ為ニ故意ニ外物ノカヲ假リテ一時  
ノ快適ヲ取ラントスル者アルハ是亦人性ノ自  
然ヨリ来ル者ナリ東洋各國ハ其學識實業ニ於  
テ此ノ如キノ劣等ノ位地ニ居ルニ拘ラズシテ  
却テ甲ハ自尊自大ニシテ專虛名ヲ恃ミ乙ハ太

同并

早ニモ外面ノ文明ヲ粧飾シテ先ツ肉躰上ノ奉  
養ト儀式上ノ虚文ニ於テ西洋ノ現象ヲ模擬シ  
却テ其支費巨大ニシテ毫モ我カ劣位ノ實跡ニ  
補ナキノミナラス此レニ由テ迅速ニ我カ經濟  
ヲ誤マラントスルハ其病ノ症候ハ殊ナリト雖  
自其疾ヲ回護シテ根治ノ醫方ヲ愆マルニ至ラ  
ハ均シク又同一ノ結果ニ歸セザルコトヲ得  
ス此レ皆自然進化ノ天法ニ循ハズレテ一ハ遲  
滯ノ失弊ニ墮落レ一ハ進行軌道ノ必要ナル順  
序ト年期ニ向テ細心注意セザルノ致ス所ナリ



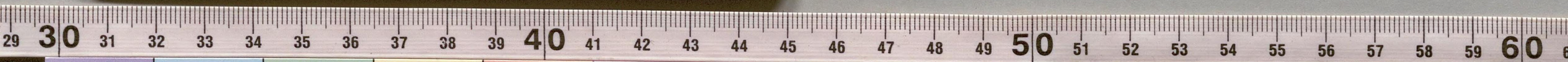
此、如ク説キ下セハ、進行ヲ誤マルノ罪ヲ以テ  
一概ニ當局其人ニノミ歸スヘキカ如シ其レ然  
リ豈其レ然ランヤ一國ノ盛衰強弱ハ大抵百餘  
年前ヨリ稜成セル積勢ノ結果ニシテ一朝一夕  
ノ偶然ノ事故ニ起因スル者ニ非ス故ニ政事家  
ノ志操ハ即チ國民ノ實力実勢ノ結晶セル英華  
ニシテ政事ノ方嚮ハ國民思想ノ反照タルニ過  
キス縱令英傑ノ人アリテ多少鞭策スル所アル  
トキハ以テ衰運ヲ挽回シ人心ヲ激勵スルノ効  
カナシトセスト雖到底醫家ノ疾ヲ治メ水理家

同并

ノ水ヲ治ムルニ均シク亦天然ノ良能ヲ補助ス  
ルノ範圍ニ止マル者ナリ故ニ社會學ノ學理ニ  
據テ之ヲ論スルトキハ國ノ衰運ハ畢竟國民一  
般父祖以來ノ懈怠ヨリ起因セル結果ニシテ豈  
獨當局其人ノ過失ノミナラン乎哉

### 第三

國ノ盛衰ハ積勢ノ致ス所ニシテ其時ニ臨メル  
當局其人ノ功罪ニノミ歸スヘカラサルハ前段  
ニ説ケル所ナリ然ト雖凡ソ物ヲ稜フコトハ誰  
クシテ物ヲ敗ルコトハ易シ物ヲ助ケテ長大ナ





ラレムルハ一朝ノ能ク為ス所ニ非スト雖物ヲ  
傷害シテ衰滅セシムルハ或ハ終朝ヲ待タズシ  
テ能クスヘシ庸墜ハ天然ヲ補養セスシテ却  
病弊ヲ助長シ激進セシムルコトナシトセス  
一新ノ後誰レ去フトナク又一人一ノ著述ヲナ  
シテ之ヲ世ニ問ヒタルコトモナシト雖何時ノ  
間ニカ一個ノ定論ノ如ク朝トナク野トナク我  
カ日本人ノ腦漿ニ浸漸シテ其根蒂ヲ固結シタ  
ル一種ノ新奇ノ説アルカ如シ  
其説如何曰人民生活ノ低度ナル者ハ其開化ニ

同井

同井

進マザルハ地候ナリ故ニ先ツ衣食需要ノ度ヲ  
高尚ナラシメ華麗膏腴ノ嗜好ヲ進メ人民ヲシ  
テ財利ノ慾ヲ活潑ナラシムルトキハ生産後テ  
興リ高賣後テ繁昌シ一國以テ富強ノ途ニ向フ  
コトヲ得ヘシト  
此説ハ一局ニ適當スヘキ一理アルノ論ニシテ  
全躰ニ普通ナル完全ノ論ニ非ス即チ語ヲ替ヘ  
テ言ヘハ似テ非ナルノ論ニ過キサルノミ  
獨シノ口ツセル氏ノ説ニ曰生産ト消費ト均等  
ニ發達スルハ國民財計ノ興起スル所以ノ要件

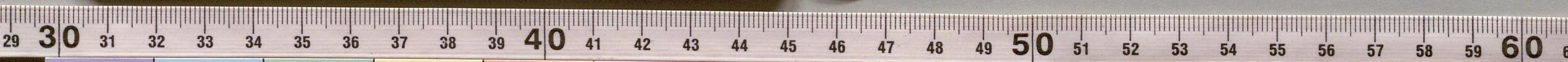




ナリ而レテ國民財計ノ成遂ハ常ニ生産ハ其消  
費ヨリモ一步ノ先進スルニ在リ譬ハ動物ノ  
生理ニ於テ滋養ノ量ハ分泌ノ量ヨリモ多キヲ  
以テ生育ノ自然トスルカ如シ又曰ク實際ニ於  
テ忘ルヘカラザルハ人性ノ消費ヲ好ムノ常情  
ナリト  
況ンヤ我カ現今ノ勢ハ内外ノ際ニ生産ト消費  
トノ關係ヲ有スル者タリ我カ上等社會ノ消費  
ハ我カ下等人民ノ生産ヲ勸奨スル者ニアラス  
レテ却テ外國生産ノ為ニ販路ヲ廣メ彼此貿易

同井

交換ノ比例ニ於テ我カ不利ヲ予フル者ナリ彼  
ノ普通經濟家ノ論スル如ク甲ノ消費ハ乙ノ生  
産ニ販路ノ利益ヲ與フヘク甲乙ノ間供給需要  
互相平均ノ國ナルトキハ互ニ利益ヲ相為スヘ  
ク然ルニ若シ甲ノ需要ノ度乙ノ需要ノ度ヨリ  
急ナルトキハ貿易交換ノ比例一方ニ傾重シ甲  
ノ國ハ乙ノ國ニ向テ或ハ祖先以來ノ儲蓄ヲ以  
テ購買ノ力ヲ補フカ又ハ其供給ノ生産物ヲ低  
價ニ賣崩シテ以テ一時ノ平均ヲ取ラザルコト  
ヲ得ズ今我カ國ニ流行スル消費ハ富人ノ消費





貧者ノ利益図タルノ類ニ非ス及甲乙交互利益  
ヲ相為スノ類ニ非スレテ却テ貧者ニシテ謂レ  
ナク過度ノ消費ヲ為シ倒シマニ富人ニ向テ生  
産ノ利ヲ加ヘシメ一方ニ於テハ又已レノ生産  
ノ價ヲ墮落セシムルノ傾向アル者ナリ  
人智ノ薄弱ナル之ヲ經驗ニ徵スルニ生産ノ力  
ナクテ先ツ過度ノ消費ヲ慣用スルトキハ忽  
チ不足ノ感ニ急ナルカ故ニ其稍伶俐ナル者ハ  
必ス投機冒險以テ奇利ヲ射ルノ徒トナリ其愚  
昧ナル者ハ一變シテ詐偽竊取ノ態ヲ學フコト

同井

ヲ免レズ投機又ニ詐偽ノ流社會ニ公行シ而シ  
テ其拙ナル者ハ敗レ巧ナル者ハ勝ツニ至テハ  
風俗腐敗シ信用地ニ墜チテ人々相欺キ工業ハ  
徒ニ其名ヲ假リテ以テ財ヲ借り債ヲ起スノ具  
トナリ商業ハ其性質ヲ轉シテ專ラ投機者ノ窠  
窟トナリ着實ノ事業ハ却テ他ノ奇巧ノ徒ノ為  
ニ壓倒サレ此ノ風漸クニ社會ヲ癩蝕シテ終ニ一  
國ノ衰運ヲ醸成スルニ至テ然後ニ始メテ止マ  
シトス  
一人又ハ一家又ハ一村落ノ小部分ニ就テ言フ



トキハ先ツ消費ノ過度ナルニ道サカレ遂ニ生産  
ニ勞動スルコトヲ悟ル者十中ニ一ニナレトセ  
ス此レ前ニ所謂一局部ニ適スルノ論ナレト一  
國ハ大數ナリ縱令十中ノ一二ハ卓越拔群ノ輩  
アリテ奮發ストモ全國滔々トシテ詐偽投機ノ  
風ヲ養ヒ成ストキハ遂ニ相俱ニ衰運盤渦ノ中  
ニ墮落スルコトヲ免レザランノニ故ニ此ノ新  
奇ノ論ニ或ハ一種ノ蠻民ノ為ニ鼓舞ノ方便ト  
シテ適用スヘシト虽一國ヲ興ス為ニハ似テ  
非ナルノ論タルコト疑ナレマレテ新國ヲ興起

同井

スルノ際ニ於テラヤ

更ニ此論ノ道路ヲ塞カン為メニハ又左ノ事情  
ニ注意スルコトヲ要ス自然ノ進化ヲ遂フノ邦  
國ハ其生産物品ト消費物品トハ大槩兩々相伴  
フ者ニシテ麻布ノ生産物アルノ國ハ又麻布ト  
甲乙相類スルノ消費物アルニ過キズ兩端ノ間  
其距離甚ク相懸隔スルニ至ラザルヘシ然ル  
ニ我カ東洋ノ如キ他國ノ進化ヲ假ルノ邦國ハ  
其生産物ト消費物ト彼此兩極ニ懸絶シ生産ノ  
自國物品ト消費ノ他國物品トハ百年又ハ二百





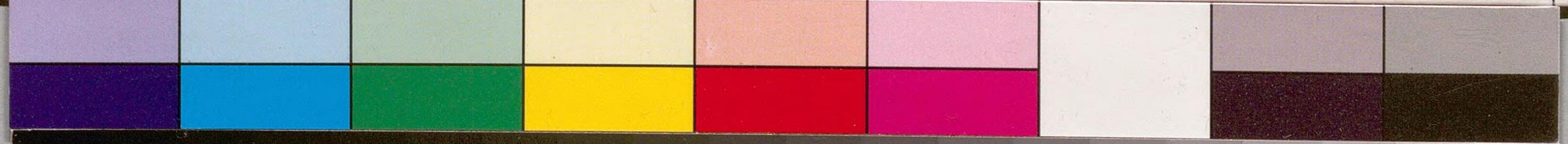
年ノ度ヲ異ニシ一ト十トノ位ヲ殊ニスル如キ  
懸隔ノ差アルハ已ムヲ得サルモノナリ此場合  
ニ當リ前ノ新奇ノ説一タヒ之ニ投スルトキハ  
人心狂躁シテ第一ニ非例ノ需要ニ支リ以テ貧  
困ニ傾キ第二ニ非分ノ奇利ヲ射以テ風俗ヲ腐  
敗セシムルハ怪ムヘキニ非ザルナリ  
故ニ茲ニ之ヲ断言スヘシ曰國ノ經濟ハ生産ト  
消費ト比例ヲ失ハズレテ生産常ニ先進シ消費  
之ニ隨行スルニ在リ生産消費ヲ導キ然後ニ消  
費又轉シテ生産ヲ促スヘク因々果々輾轉窮リ

同井

ナカルヘシ彼ノ消費ヲ先ニシ以テ生産ヲ促ス  
ノ説ノ如キハ此レヲ國民ノ腦漿ヨリ蕩除シテ  
餘毒ナカラシムルニ非ザレハ其害ハ將ニ百年  
ノ後ニ流レントス

#### 第四

天然進化ノ順序ニ遵行セサルノミナラズシテ  
却テ藥ヲ投シテ病ヲ激スルノ謬見ハ前段ニ述  
フル所ニ止マラス猶此ノ外ニモ種々ノ鑿説ア  
リテ世ニ弊カヲ有スルニ至ル蓋國民窮困ノ餘  
自愛ト愛國トノ良心ノ為ニ鼓動スル所トナリ





百端思ヲ苦メ以テ種々架空ノ奇策ヲ摸擦スル  
ハ此亦人智ノ變象ニシテ恰モ病症ノ第二期以  
後ニ於テ種々ノ變候ヲ現ハス者ト異ナルコト  
ナレ  
救済策ノ第一ハ曰ク楮幣ヲ發行シテ以テ通貨  
ノ不足ヲ補フ其第二ハ曰ク外國公債ヲ催ス其第  
三ハ曰ク銀行會社ノ株ヲ外國ニ募ル其第四ハ  
曰ク外國盛大ノ銀行ト條約ヲ結ビ支店ヲ我國ニ  
設ケ資本ヲ發行セシム  
此ノ四説ハ皆一樣ニ窮困苦心ノ餘ニ發スル人

同井

智ノ變象ニシテ其結果ニ總テ同一ノ点ニ歸ス  
ル者ナリ蓋其中ノ一ヲ実行スルトキハ一時必  
ニ回復變動ノ假相ヲ現出シ國民ヲシテ踊躍欣抃  
ノ思アリテ病者ノ其病ヲ忘ルカ如クナラシ  
ムヘク而シテ短キハ三四年長キハ十年又ハ十  
五年ノ間ニハ必不良ノ反動ヲ起シ藥毒劇發シ  
テ元氣枯燥血液壞敗シ或ハ救フヘカラザルノ  
最終期ニ落入ラントス  
第一説楮幣發行ハ既ニ試ミタルノ弊政ニシテ  
世人ノ深ク其結果ニ懲悔シタルノ近例アレハ



今更ニ喋々スルヲ用ヒザルヘシ但シ不換紙幣  
ト及發行ノ數額適當ノ比例ヲ越エルトノ二弊  
ノ外ニ猶我カ國今日ノ現状ニ就キ一種特別ノ  
情景アリテ經濟學者ノ未タ論及ヲ經ザル者ア  
リ第一後進ノ國俄ニ先進ノ國ト交際スルニ當  
テハ國民其國賦計ノ実力ヲ忘レテ懸空ニ殷富  
ノ幻想ヲ抱キ生産儲蓄ニ務メスレテ專ラ購買  
消費ヲ事トスルノ勢アルヲ免レス楮幣發行ハ  
此時ニ際シテ通貨ヲ多カラレシメ後テ内地製造  
ノ物品ヲ貴カラシメ假造ノ富ヲ張テ國民ノ空

同井

想ヲ助クル者ナリ故ニ楮幣ノ發行未タ普通ノ  
比例ヲ越エルニ至ラザルモ稍ヤ其力ニ依テ融  
通活潑ノ効果ヲ得ルト同時ニ國民ノ外國物品  
ニ對スル購買消費力ヲ增長シ忽チ輸出輸入ノ  
不平均ヲ生スベシ第二外國物品ノ取引ハ專ラ  
正貨ニ依ルカ故ニ純ニ輸出輸入ノ不平均ヲ感  
スルトキハ開港所ノ相場ニ忽チ金楮ノ差ヲ生  
シ而シテ其相場ノ虚聲ハ内地ニ波及スルコト  
極メテ迅速ナルヲ以テ楮幣發行ノ実數ハ極適  
當ノ範圍ヲ越エザルモ既ニ兩貨ノ間ニ甚シキ





差ヲ生シ其浮沈常ナキニ困ムニ至ル此ノ二ツ  
ノ事情ハ明治十三年ノ楮幣下落ノ原因中ノ  
最モ重ナル者ナリ世人或ハ楮幣下落ノ弊ヲ以  
テ偏ニ不換紙幣又ハ発行過多ニ歸シタルハ我  
國ニ於ケル一種特別ノ事情アルヲ察セザルナ  
リ  
其它ノ三説ハ皆我父母ノ國ヲ以テ埃及タラシ  
ムルノ初歩ヲ試ル者ナリ蓋我國民ヲシテ果シ  
テ事業ヲ興スノ智識ト氣力トアリテ又紙ク少  
期ノ國ノ良紙ヲ利用セシメハ土地抵當銀行ヲ

同井

起シ興業切手ヲ発行スルヲ以テ充分ナルヘシ  
何リ必シモ外國ノ資本ヲ借ルヲ要トセン  
智識ト氣力トハ事業ヲ興ス為メノ最要ナル無  
形ノ資本ナリ既ニ智識ニ浅ク氣力ニ乏ク又少  
期ノ國ノ良能ヲ利用スルヲ能ハズシテ而シテ  
徒ラニ外國ノ資本ニ倚頼セントナラハ其資本  
ハ生産ヲ助ケズレテ却テ空シク消費カラ増加  
スルニ至ラサルコトヲ得ル歟事業ノ利息ハ果  
シテ起債ノ利息ヲ償フニ足ル歟起債ノ利息ヲ  
償フ為ニ更ニ又起債スルヲ要スルニ至ラサル





歎余ハ是ニ於テ長崎縣黒崎村ニ閑塾ト私教ト  
ヲ業トセル佛國ノ宣教師某ノ朴直ナル一言ヲ  
引用スルヲ以テ是レリトスヘシ曰外國公債ハ  
歐洲人ニシテ之ヲ行フコトヲ得ヘキモ日本國  
民ハ之ヲ行フノ能力ナシ公債ノ説ハ日本ノ為  
ニ毒害ナリト  
幸ニ外國公債ノ説ハ社會ニ勢力ヲ得ルニ至ラ  
ズト雖余ハ嘗テ或ル經濟學會ノ試験ノ論題ニ  
甲乙点ヲ得タル者ハ皆外國債ノ説ナルコトヲ  
見タリ或ル經濟新聞ノ説ハ盛ニ外國債ノ利ヲ

同井

説キタルヲ見タリ又或ル商工會議ノ建白ニ外  
國債ヲ主張シテ政府ニ勸告シタルヲ見タリ而  
シテ余ハ將來ノ為ニ左ノ一段ヲ豫言スルノ痛  
苦ヲ感スル者ナリ曰我カ國民ノ前途ハ必ス公  
債ノ説ヲ一變シテ私債トナシ各個人ニ歐洲ノ富  
豪ニ倚賴シテ此ノ危險不測ナル秘計ニ競奪シ  
以テ一擲ノ投機ヲ試シントス公債ハ猶ホ限極  
アリテ後日ニ收拾スヘキモ私債ハ即チ國民ヲ  
擧ケテ自ラ不幸ノ位置ニ落入ラシメ其三分ノ  
一ハ事業完成シテ元利ヲ返償スルノ好結果ア





リテ假定スルモ三分ノ二ハ大抵失敗シ其身体  
家族財産ヲ擧ケテ利息ノ餌トナリ資本ノ職役  
トナリ一新以前蝦夷人ノ江州商人ニ使役サレ  
タルカ如ク今年ノ労働ハ去年ノ償却トナルニ  
過キザラントス縦令此ノ如キニ至ラサルモ利  
益ノ大半ハ資本主ノ為ニ占取セラレ已レ其少  
半ヲ得テ財主ト勞力人トノ間ニ居中シ永久遂  
ニ独立ノ位置ヲ得ルコト能ハザルヘシ故ニ私  
債ハ國民中等種族ノ過半ノ為ニ奴隸ノ媒メヲ  
為ス者ナリ

同井

公債變シテ私債ノ説トナルハ最不祥ナル人智  
ノ變象ニシテ財計上ノ凶兆此レニ過ルハナシ  
而シテ前ニ擧ケタル第四説ノ如キハ即チ稍ヤ  
此ノ變症ノ兆候ヲ顕シタル者ナリ

第五

前ニ擧ケタル一ノ新説ト四ノ奇策トハ總テ皆  
對症ノ藥石ヲ誤マル者ノ外ニ更ニ一種ノ變候  
アリテ亦患者ノ為ニ一時苦悶ヲ忘レシムルニ  
足ル者アリ下文ニ之ヲ述ヘシ  
造物者ノ動物ヲ生スルニ大ニ強弱各其種類ヲ





異ニスト 雖總テ賦與スルニ自活ノ器ト自衛ノ  
具トヲ以テセザルコトナシ 即チ爪アリ牙アリ  
或ハ角アリ或ハ甲アリ或ハ介ニ蔽レ或ハ土ニ  
墊シ或ハ毒毛螫刺アリ  
人ノ集マリテ國ヲ成スハ自活ト自衛ノ兩般ノ  
目的ヲ達スルカ為ナルニ外ナラス 若シ其一ヲ  
缺クトキハ國其國ニ非サルナリ 故ニ石劍雷斧  
ノ未開ノ上古ニ於ケル兵艦砲機ノ今日ニ於ケ  
ル總テ皆吾人饑テ食ヒ寒エテ衣ルト其必要ノ  
度ヲ同クスル者ニシテ一日モ闕略シ能フヘキ

同井

ニアラザルナリ 特ニ欠畧スヘカラサルノミナ  
ラス又一日モ輕視スヘカラサルナリ  
中古ノ「イタリヤ」ノ地中海ニ沿ヘル各小國ハ商  
賣國ト稱ヘテ自衛ノ具ヲ闕畧シタル者ナリ 五  
百年来支那ニ向テ自ラ一國ト稱ヘタル琉球ハ  
其一國ト稱フルニ拘ラズ 又此自衛ノ具ヲ闕畧  
シ外患アルニ當テハ佛神ニ禱ルノ外抵抗ヲ試  
ミザルヲ以テ國是トセリ 支那及佛教諸國ハ此  
ノ自衛ノ必要ヲ輕視スルノ習癖アルコト遙ニ  
マホメツト宗ノ國々ニモ劣レリ



抑々自衛ノ具ノ必要タルハ人々ノ認メテ異議  
ナキ所ナリ唯々其費用巨大ニシテ新造國ノ辨  
シ難キ所ナルヲ何如セン現今交際禮儀百般文  
物ノ費亦多シ彼此ノ間斟酌スル所アリテ緩急  
ノ宜シキヲ量ルハ此レ今日ノ問題ナリ  
炎夏ニ綿入ノ要用ナシ嚴冬ニカタビラノ要用  
ナシ夏綿入ナク冬カタビラナキモ人其貧ヲ笑  
ハザルベシ國トシテ文武ノ備ヲ全クスルコト  
能ハザレハ寧ロ其一ヲ欠クモ差支ヘナシト謂  
ハシカ此レ乃チ一種ノ變候ニシテ財政上一時

同井

患苦ヲ忘ル、ノ便法ナリト虽其實ハ均シク邦  
國進化ノ軌道ヲ誤マル者ニシテ楮幣外債ト其  
結果ヲ同クスル者ナリ  
何故ニ楮幣外債ト其結果ヲ同クスヘシト云ヤ  
今ノ時ニ當テ凡ソ國ヲ立ル者十年無事ヲ保ツ  
ヘカラザルハ人々ノ知ル所ナリ一朝隣國ト事  
アリ又ハ他國ノ紛争ニ關係アルニ當テ若シ自  
衛ノ具ヲ闕キ或ハ其名アリテ其實備ハラザル  
トキハ恃ム所ノ者ハ唯々急ニ外國ノ兵器ヲ購  
買スルノ一方アルニ此ノ不意ノ變ニ應スル



為ニ平日特別ノ準備金額アルニ非サレハ急場  
ノ外債ヲ催スカ又ハ外國政府ニ振替ヲ頼ムノ  
外ニ策ナカルベシ此レ乃平日自衛ヲ闕クノ國  
ハ目前ニ高利ナル外債ヲ抱ヘタル者ニシテ其  
實ハ近期拂ノ類ニ均シク彼ノ平日ニ外債ヲ催  
シ又ハ不換楮幣ヲ發シタルト分毫モ其結果ヲ  
異ニスルコトナキニ非ス乎  
或ニ謂ハシ何故ニ生産ト消費ト比例平行セズ  
ト云フ乎海關ノ輸出入ハ其平均ヲ保ツヲ見ズ  
乎何故ニ賦計困難ナリト云乎金楮ノ價差額ナ

同井

キヲ見ズ乎ト抑ニ各國其歳入四分ノ一ヲ使用  
レテ瞬間ノ怠慢ヲ容レザル者ハ自衛ノ具ニア  
ラス乎今果シテ實際際ニ於テ國自ラ國タルノ  
実体ヲ備ヘ獨立ノ基本ヲ固クシ以テ中古ノイ  
タリヤ及支那ノ類タルコトヲ免レントセハ十  
年間ノ費要ハ歳入ノ三分一ニ上ラシム氏決シ  
テ四分一ノ下ニ節畧スルコト能ハザルヘシ我  
カ國民ハ後進國ノ免レザル不幸アルガ為ニ早  
晩一夕ニ此ノ非常巨大ノ費ヲ償フカ又ハ永  
久ニ琉球ノ國是ヲ守ルカノ兩途ノ一ヲ擇ハザ



ルコトヲ得ズ今日ノ國民ハ此ノ一大負擔一大  
借債ヲ延期シテ經過スルモノナリ果シテ此ノ  
急務ヲ奉行シ必要ヲ消費スルノ日ニ至ラバ我  
カ生産ハ果シテ之ヲ償フニ足ルカ輸出入及經  
濟ノ情状ハ更ニ一層非常ノ變態ヲ顯スニ至ラ  
サルコトヲ得ヘキカ  
本篇ハ外交政略ヲ論スルヲ目的トスル者ニ非  
ス蓋外交政略ニ至テハ自ラ遠大ノ目的ト緩急  
ノ事宜アリテ大勢ヲ遠觀スルノ人ニ非サルヨ  
リハ他人ノ窺ヒ知ル所ニ非サルヘシ故ニ自衛

同井

ノ具ヲ備フルノ遲速ニ至テモ或ハ目今ニ舉行  
スルカ又ハ數年ノ後ニ於テスルカハ英雄ノ胸  
算ニ存スル者ニシテ理論ノ範圍ニ局限セラル  
ヘキニ非サルヘシ但シ經濟上ニ於テ國民ノ多  
數ハ此一大負擔ヲ延期シタルコトヲ忘レ太平  
雍々トシテ却テ百年全盛ノ國ト矜相上不急ノ  
需要ヲ競争シ金碧華麗ノ風俗ニ浸化シテ子孫  
ノ為ニ巨大ノ國債ヲ遺スハ亦人智ノ弱点ニア  
ラズ乎

本章ノ終ニ於テ歴史上「ロ」ニ盛衰ノ事ヲ記





念セル讀者ノ注意ヲ呼起スヘシ「ドレイバル」氏  
ノ記事ニ云「ロ」に全盛ノ時ハ恰モ腐敗ノ極度  
ニ達セシ時ナリシ此時ノ人ハ人生ハ一大宴會  
ノ如クナルベシト云ヘル語ヲ以テ生活ノ準則  
トレ或ハ金銀珠玉ノ眩耀セル盃盤几卓ノ間ニ  
飲食レ或ハ宏壯華麗ナル浴場戲場ニ歡樂ヲ取  
リ上下皆勢力ヲ以テ最大事物トシ良民ノ財産  
ヲ没収シ重税ヲ課斂スルヲ以テ戦切ノ正當ナ  
ル報酬トシタリ皇帝ハ専ラ勢力ノ看板タルノ  
ミシテ他ニ國民ニ對スルノ義務アルコト無

同井

カリキ故ニ此時社會ノ外面ハ華美ヲ極メレト  
雖其華美ハ昔時地中海ヲ照シタル燐火ノ如ク  
腐敗ニ出テ、腐敗ニ歸ルニ過ギサリシト

### 第六

前編ニ論述スル所ハ偏ニ現今及將來ノ惡候ヲ  
ノミ列舉シタルモノナレハ讀者ハ必左ノ感  
觸ヲ引起スニ過ギザルヘシ曰論者ノ説ノ如ク  
ナレハ後進ノ國ハ遂ニ自然淘汰ノ天法ニ依リ  
往口衰運ニ就クコトヲ免レザル歟ト  
生理學ニ於テ其生期既ニ老境ニ至リ退穢アリ



テ進機ナキ者ヲ除ク外天然ノ良能ハ漸エス冥  
々ノ中ニ發動スル者ニシテ一脉ノ元氣ハ常ニ  
万般ノ障碍物ヲ驅除シテ以テ一條ノ活路ヲ求  
メザルコトナシ國ノ盛衰ハ恰モ生理学ヲ以テ  
例推スヘク國民ノ志氣ハ即チ一脉ノ元氣ナリ  
國ハ一般ノ生物ト均シク少壯老ノ三期アルハ  
前既ニ之ヲ説ケリ我國ハ方ニ少期ノ位置ニ在  
リテ新興ノ勢ヲ有スル者ナリ  
後進國ハ先進國ノ進行セル軌道ニ向テ模範ヲ  
取ラザルコトヲ得ズ歐洲各國ハ現在既ニ二三

同井

百年ノ全盛ヲ經テ殷富幸福ノ極ニ達シタルモ  
其二三百年前ニ洵レル創業興起ノ時即チ少期  
ノ時ニ在テハ何レノ國モ非常ノ艱難困苦ヲ經  
過セザリシ者ナシ善ク先進國ヲ學フノ後進國  
ハ先進國ノ少期ノ時ヲ學フヘク而シテ其ノ壯  
期ノ榮華ト老期ノ腐敗トヲ學フヘカラザルナ  
リ故ニ先進國ノ少期ニ當レル過去ノ歴史ハ後  
進國ノ現在ノ模範ナリ洋史ヲ讀ム者或ハ前代  
勞苦簡儉ノ事ヲ以テ一槩ニ未開野蠻ノ者ヲ為  
シ直チニ現在全盛ノ表式ヲ模擬セント欲ス誰



レカ現在ノ全盛ハ夙ニ其根原ヲ勞苦簡儉ノ時  
ニ葺シタルコトヲ知ランヤ巴里ノ市街ニ敷石  
ト街燈ナリ時ノ宰相ハ一驢ニ乘リ一僕ヲ従ヘ  
道路ニ道遙シタルハ二百年前ノ事ニ過キズ而  
シテ當時佛國ノ海商ハ既ニ英國ト印度海ニ競  
争シ激烈ナル戦争ヲナレタリシニ非ズ乎  
歐洲ノ各大國ハ多クハ悠遠ナル歲月ノ間ニ進  
化ノ順序ヲ經過シタル者ナリ其中若レ各國ニ  
後レテ基業ヲ創造シ勉勵奮迅ノ力ヲ以テ國勢  
ヲ一時ニ振興シ百年ノ事業ヲ十數年ノ間ニ短

同井

縮シテ遂ニ小ヲ張テ大トナシ弱ヲ轉シテ強ト  
ナシタルノ國アリシナラハ此レソ我國ノ為ニ  
無ニノ好模範ナルヘケレト惜イ哉歴史ニ未ダ  
此ノ異常ノ事アルヲ許サズ一モ我國ノ為ニ適  
切ナル誘導者タル模範ノ國アルコト無シ今先  
進國ノ中ニ強テ此類ノ模範ヲ求ムルノ必要ヲ  
感スルナラハ字國コソ近クデラシデンヒエル  
グレノ小部落ヨリ奮興シテ百年ノ間ニ弱小ヲ轉  
シテ強大トナシ遂ニ他ノ大國ト競争シテ勝ヲ  
歐洲ノ中原ニ占ムルニ至リレ新國ナリ字國創



業ノ先主ハ果シテ何等ノ計畧ヲ用テ此ノ非常  
ノ切ヲ成シ能ヒシ乎  
農業ヲ以テ國ヲ興スノ本トナシ勸農ヲ以テ地  
方官吏ノ功績第一トシ終ニ戦争ヲ休ム末夕王  
宮ニ歸ラズシテ隣敵ノ間ニ巡視シ終歲寧居セ  
ズ薨スルニ先タツコト三日仍ホ農事改良ノ事  
ヲ商議處分セシメタル者ハ孝國ノ先主ニ非ス  
ヤ賢ヲ愛シ士ヲ招キ万金ヲ惜マズシテ而シテ  
身儉約ヲ守リ奢ヲ以テ敵トシ鞭ヲ執テ自ラ踏  
上游惰奢美ノ人ヲ撻キシ者ハ孝國ノ先主ニ非

同井

ス辛八百万タレシラ國庫ヨリ支出シ以テ乱  
後ノ農民ヲ救助シ貧民ノ為ニ田地ノ負債ヲ償  
却シ閑墾疏鑿ヲ以テ平和ノ戟トシ為ニ毎年數  
十万タレシラ薨シ在位四十年ノ間ニ新ニ九  
百村ヲ増シ全國三倍ノ生産ヲ増殖シタル者ハ  
孝國ノ先主ニ非ス乎内國幼穉ノ製造ヲ保護シ  
外國物品ノ輸入ヲ制限シ以テ資本ヲ留存シ工  
業ヲ勸導シ富実ノ基ヲ肇メシ者ハ孝國ノ先主  
ニ非ス乎  
此時ニ當テ佛國ノルイ十四世墺國ノマリヤテ

29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60



レシヤ及燭し各國ノ帝王ハ中世以來盛栄ノ極  
点ニ達シ羅馬ノ末世ニ均レク華美壯麗ヲ以テ  
王家ノ威嚴トシテ争フテ宮室土木文物聲樂ヲ以  
テ國光ヲ疵飾シ人民ヲ威服スルノ具トナセル  
ニ孝國ノ先主ハ獨リ其間ニ在テ國ヲ草澤ノ中  
ニ立テ衣食宮室其節儉ヲ極メ身ヲ以テ率先シ  
民ニ臨ムニ仁愛ヲ以テレ人民ヲ以テ一人ニ奉  
養セズレテ一人ヲ以テ人民ノ為ニ勞役レ而レ  
テ又能ク列國ニムコリ居テ大ニ事ヘ小ヲ撫テ  
其歡心ヲ失フニ至ラザリレ

同井

蓋新興ノ邦ハ古今東西ヲ問ハバ之ヲ歴史ニ徵  
スルニ總テ皆節儉勤勉ニシテ上下一致ノ氣風  
アラザルハナシ是レ少期ヨリ壯期ニ進ムノ  
徵候トス此レ孝國ノ能ク弱小ヨリ強大ニ轉シ  
一國ノ進運ヲ鼓動シテ非常ニ迅速ナラレノ百  
年後進ノ國ヲ以テ一朝列國ノ間ニ冠首ノ位置  
ラ占ムルニ至リタル所以ナリ孝國ノ先主ハ能  
ク少期ノ國ノ自然ノ良能ヲ翼賛利用シタル者  
ナリ此点ニ於テハ我國ハ衰運ノ末世ヲ嘆スル  
ヨリ寧ロ新興ノ少期ニ際會シ無ニノ資本ト自





然ノ良能トテ専有レ前途盛大ノ境域ヲ咫尺ノ  
間ニ瞻望スル者ナリ此レ豈吾人ノ最大幸福ニ  
アラスヤ但々之ヲ利用スルト否トニ至テハ專  
國民ノ志氣何如ニ在ルノミ  
以上説ク所ヲ總ヘテ之ヲ略説センニ我國ハ不  
幸ニシテ後進ノ位置ニ居リ前途巨大ノ蹙漸ア  
リテ針路一タヒ誤ルトキハ自然淘汰優勝劣敗  
ノ天法ニ服従スルコトヲ免レズ故ニ生産ノ實  
力ヲ勉メズレテ先ツ消費ヲ競ヒ出入比例ヲ失  
ハレムルハ自然進化ノ順序ニ従ハサル者ナリ

同并

少期ニ居テ勞働發育ヲカノズ却テ壯期ノ榮華  
ト老期ノ齟齬ヲ學ブハ自然進化ノ順序ニ従ハ  
サル者ナリ凡ソ自然進化ノ順序ニ従ハサル者  
ハ皆自ラ新興ノ氣象ヲ抛棄シテ墜ナカラ衰運  
ニ就ク者ナリ



